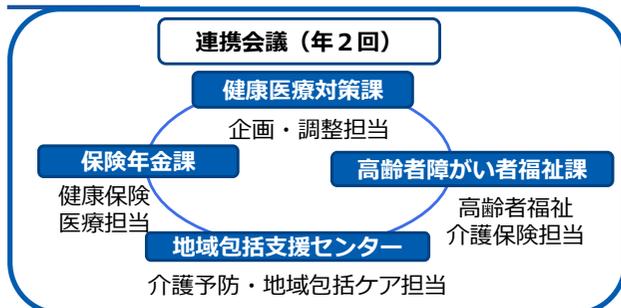


島根県 江津市 通いの場を活かした一体的実施の推進

市の概況(令和6年3月31日時点)

人口	21,464人
高齢化率	40.7%
後期被保険者数	4,952人
日常生活圏域数	4圏域

実施体制



江津市医師会

江津市歯科医師会

浜田地区歯科衛生士会

しまねリハビリテーションネットワーク

地域(まちづくり協議会、食生活改善推進協議会等)

ここがポイント

☞ 通いの場の参加率県内第2位
週1回参加率18.2%(R3)

☞ 後期高齢者健診受診率が高い
43.7%(R5)

☞ 高齢化率は上昇しているが
要介護認定率は低下傾向

取組の経緯

令和4年度に一体的実施の取組開始したが、以前から市内各地区の健康づくり推進会(現まちづくり協議会健康・福祉を考える部会)を核として市保健師と協働で、地域の生活習慣病予防、介護予防対策に関して取組を進めていた。また、骨折予防の取組の一環としていきいき百歳体操を地域包括支援センターでモデル的に実施し、市内各地の通いの場で実施件数を増やしていった。通いの場は、様々な住民主体団体が運営主体となっており、令和3年度の高齢者の通いの場の参加率(週1回)は18.2%と、全国2.2%や島根県3.0%を大きく上回っており(「第9期島根県介護保険事業支援計画」より)、通いの場を活かした一体的実施事業の取組を推進している。

企画調整・関係機関との連携

- 医師会及び歯科医師会との連携
健康課題について情報共有、意見交換を行い、対策についての助言をいただき連携を図っている。
- 地域リハビリテーション活動支援連絡会(現しまねリハビリテーションネットワーク)との連携
市は地域課題等について、地域リハビリテーション活動支援連絡会(現しまねリハビリテーションネットワーク)と連携し、介護予防についての課題と取組について情報共有、意見交換を行っている。また、通いの場での運動に関する情報提供、活動量アップに向けた実技指導等についても連携を図っている。

ポピュレーションアプローチ

- 通いの場を活用した多職種によるフレイル予防
保健師、管理栄養士、歯科衛生士、リハビリ専門職、食生活改善推進員、生活支援コーディネーターが通いの場等で以下のような取組を実施している。
※事業の一部を食生活改善推進員に委託
①いきいき百歳体操(江津市版)
②フレイルチェックアンケート調査の実施
③健康診査についての啓発
④食生活改善推進員、栄養士による口腔、栄養に関する啓発
- 男性の社会参加の実態把握とフレイル予防
男性の参加が多く、介護予防ポイント活動に参加している通いの場で、フレイル予防啓発や男性の社会参加に関するニーズ調査等を実施している。



【通いの場の様子】

ハイリスクアプローチ

- 低栄養
保健師、管理栄養士が対象者へ3か月間に2回訪問指導を実施。対象者の状況に合わせた個別の指導用資料を作成し指導を行っている。
- 健康状態不明者
市で基本チェックリストを元に作成した元気確認シートを対象者に郵送し、返信回答をもとに健康づくりアドバイス票を送付している。フレイル該当者、元気確認シートの未提出者に対しては、健康状態を確認するために個別に訪問し状況確認、健診の受診啓発を行っている。

高齢化率・要介護認定率の推移

☞ 高齢化率と要介護認定率

高齢化率	R元 39.0%	⇒	R5 40.7%
要介護認定率	R元 22.1%	⇒	R5 21.0%
(※参考 島根県	R5 高齢化率35.0%	認定率	20.9%)

島根県 江津市

事業結果と評価概要（令和5年度結果）

		対象者数又は実施箇所数	参加者数	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスクアプローチ	低栄養	対象者数 25人	2人	① 体重が維持または増加した割合 ② 目標達成率	① 2人とも体重が増加（100%） ② 2人とも個人の目標達成（100%）
	健康状態不明者対策	対象者数 17人	17人	訪問等により状況把握ができた人	・13人は訪問等により状況が把握できた。 ・4人は訪問したが本人に会えず家の状況確認のみ。 ※17人のうち、他機関と情報共有した人が1人、介護サービスの相談へ繋がった人が1人
ポピュレーションアプローチ	健康教育・健康相談	実施箇所数 81か所	2,799人	① 参加者数 ② 後期高齢者歯科口腔健診の受診率の伸び	①参加者数 R4 765人 ⇒ R5 2,799人 実施箇所数 R4 26か所 ⇒ R5 81か所 ②後期高齢者歯科口腔健診の受診率(R4県平均11.6%) 8.43%(R3)⇒11%(R4)⇒10.45%(R5) 後期高齢者健康診査受診率（R4県平均24.4%） 42.6%(R3)⇒43.6%(R4)⇒43.7%(R5) ※後期高齢者健康診査は県平均より高い受診率で推移。
	フレイル状態の把握	実施箇所数 47か所	458人	① フレイルチェックアンケートの変化 ② フレイルチェック	「ウォーキングや百歳体操等の運動を週に1回以上している」8.0%(R4)→3.8%(R5)と減少し、「以前に比べて歩く速度が遅くなってきた」と答えた人が約半数を占める等の課題が把握できたため、今後の取組に活かすこととした。

課題・今後の展望

- 元々通いの場の取組としてフレイル状態の把握、いきいき百歳体操、健康教育・健康相談などの取組を進めていたため、一体的実施の素地があったが、一体的実施の取組を進めていく中で、庁内外連携を進め情報共有、意見交換を実施することで多方面からのアプローチで取組を深化することができた。
- 令和6年度からはフレイル予防のより実践的な啓発を行い、高齢者の行動変容に繋がるよう「運動機能分析装置」を活用した健康状態の見える化を図る。
- 市は医療専門職の人員不足という課題があるため、令和6年度以降、運動指導に関しては市外の民間業者（健康運動指導士が所属）に委託し、人員不足の解消と専門的な視点での介入を図る予定である。